

28

日本国特許庁(JP)

特許出願公表

公表特許公報(A)

平3-500530

公表 平成3年(1991)2月7日

Int. Cl.⁴

特許庁

特許庁

審査請求 未請求

予備審査請求 未請求

部門(区分) 3(2)

C 07 H 21/04

Z

7822-4C

8717-4B

6807-4B

C 12 N

15/00

5/00

A

B※

(全 15 頁)

発明の名称 新規な両鎖性核酸融合体

特 願 昭63-505633

出 願 昭63(1988)6月11日

国際文提出日 平1(1989)2月13日

国際出願 PCT/US88/02009

国際公開番号 WO88/09810

国際公開日 昭63(1988)12月15日

優先権主張 ①1987年6月11日②米国(US)③081,874

発 明 者

テューリス, リチャード エイ

アメリカ合衆国, カリフォルニア 92024, リューカディア, サク

チ。

ソニー ストリート 1320

出 願 人

シンセティック ジェネタイク

アメリカ合衆国, カリフォルニア 92121, サンディエゴ, スー

ス

イー, ローゼル ストリート 10457

代 理 人

弁護士 青 木 朗 外4名

指 定 国

AT(広域特許), BE(広域特許), CH(広域特許), DE(広域特許), FR(広域特許), GB(広域特許), IT(広域特許), JP, LU(広域特許), NL(広域特許), SE(広域特許)

最終頁に続く

特許(内容に変更なし)

特 許 の 範 囲

1. 細胞中でのメッセンジャーRNAの成熟及び翻訳を阻害する方法であって、

該細胞を、該細胞の転写生成物に特異的なオリゴヌクレオチド配列及び両鎖性分子を得るために該オリゴヌクレオチド配列に共有結合により連結された基を含んで成る組成物を接触せしめ、これにより該組成物を細胞内に移行せしめて該細胞の転写生成物の成熟及び/又は翻訳の阻害を生じさせる、ことを含んで成る方法。

2. 前記細胞が培養されたものであり、そして前記組成物が栄養媒体に導入される、請求項1に記載の方法。

3. 前記オリゴヌクレオチドが約5〜30ヌクレオチドから成るものである、請求項1に記載の方法。

4. 前記オリゴヌクレオチドの少なくとも1つがリン成分としてホスフェートを有する、請求項3に記載の方法。

5. 前記オリゴヌクレオチドの少なくとも1つがリン成分として1〜3個の炭素原子のアルキル基を有するホスホネートを有する、請求項3に記載の方法。

6. 前記基が疎水性芳香族基である、請求項1に記載の方法。

7. 前記芳香族基がトリテル基である、請求項7に記載の方法。

8. 前記芳香族基がフルオロセシン基である、請求項7に記載の方法。

9. 前記基がポリアルキレンオキシ基であり、ここで該アルキレンは2〜10個の炭素原子から成るものである、請求項1に記載の方法。

10. 前記ポリアルキレンオキシ基が約5〜200単位から成るものである、請求項9に記載の方法。

11. 細胞の転写生成物に特異的なオリゴヌクレオチド配列及び両鎖性を得るために該オリゴヌクレオチドに共有結合された両鎖性又は疎水性基を含んで成る組成物を含む細胞。

12. 前記細胞が培養細胞である、請求項11に記載の細胞。

13. 細胞の転写生成物に特異的な少なくとも5個のヌクレオチドから成るオリゴヌクレオチド配列；

アルキレンが2〜10個の炭素原子を有するポリアルキレンオキシ基を含んで成る両鎖性基；並びに

前記オリゴヌクレオチド配列及び前記両鎖性基に共有結合した、少なくとも1個の炭素原子を有するリンカー；

を含んで成る組成物。

14. 前記ヌクレオチドが6〜30ヌクレオチドから成るものである、請求項13に記載の組成物。

15. 前記オリゴヌクレオチドの少なくとも1つがリン成分としてホスフェートを有する、請求項13に記載の組成物。

16. 前記オリゴヌクレオチドの少なくとも1つがリン成分として1〜3個の炭素原子を有するアルキル基を有するホスホネートを有する、請求項13に記載の組成物。

17. 前記連結基が、アミノ、キノン、チオエーテル又はアミド基の少なくとも1つを含む、請求項13に記載の組成物。